

## モロッコの国王と人民 1950-1959 年

### モロッコ国内事情に関する米国国務省の記録

# King and the People in Morocco, 1950-1959

## U.S. State Department Records on the Internal Affairs of Morocco

北部は地中海に面し西部は大西洋に面し、ジブラルタル海峡を挟みイベリア半島の対岸に位置するアフリカ北西部の国モロッコは、戦略的要衝の地という立地条件に豊富な資源を有する自然条件が重なり、歴史的にヨーロッパ諸国の領土的関心を集め、19世紀末から20世紀初頭にかけてアフリカが帝国主義列強に分割される中で、1912年フランスの保護領となりました。

フランス保護領時代に創設された民族主義諸政党は第二次大戦後、独立運動を始めますが、その際、大西洋憲章のような大国による各種宣言が独立運動の拠り所となりました。1944年イスティقلال党(独立党)の宣言は独立を要求する最も初期の文書の一つです。同党は民族主義運動で指導力を発揮し、現在も有力政党の地位を維持しています。

1953年、フランスが国民から敬愛されていたムハンマド5世を追放し、不人気のモハメド・ベン・アラファをスルタンの地位に据え、反政府運動が高まりました。フランスは追放したムハンマド5世のスルタンへの復位を承認し、翌年モロッコは独立を達成します。独立達成後、ムハンマド5世は経済と政治の自由化政策を推進し、スルタン制を廃止し、立憲君主として国王の称号を帯びました。モロッコ政府は、憲法の制定を初めとする様々な政治、経済、社会制度の改革を推進しました。

本コレクションは、フランス保護領時代の末期から独立を経て、立憲君主制国家としての歩みを始めた独立後数年間に至る、50年代のモロッコ激動の時代を米国国務省文書から探るものです。米国国務省文書は、20世紀世界各国の政治、軍事、社会、経済を米国外交当局から分析、報告した資料集です。

#### <収録資料の主題>

- ◆ 米国のモロッコ民族主義者支援
  - ◆ イスティقلال党のテロリズム
  - ◆ アラブ連盟の反フランス政策
  - ◆ モロッコにおけるフランスの為替統制
  - ◆ フランス人植民者によるアルジェリア内戦波及の懸念
  - ◆ 汎アラブ主義
  - ◆ フランスの統治と軍に対するベルベル人の支援
  - ◆ フランスの傀儡スルタンの就任
  - ◆ 経済・金融改革
  - ◆ イスラーム社会とベルベル人の流儀
  - ◆ 脱植民地化
  - ◆ 農業開発
  - ◆ 移民流入と移民流出
  - ◆ 織物産業の発展
  - ◆ 外国貿易と投資
  - ◆ モロッコへのマーシャルプラン
- ◆ 収録期間: 1950-1959年
  - ◆ 収録資料の規模: 42,291 images
  - ◆ 原資料所蔵機関: 米国国立公文書館(米国国務省旧蔵)